

# 発熱性好中球減少症への対応

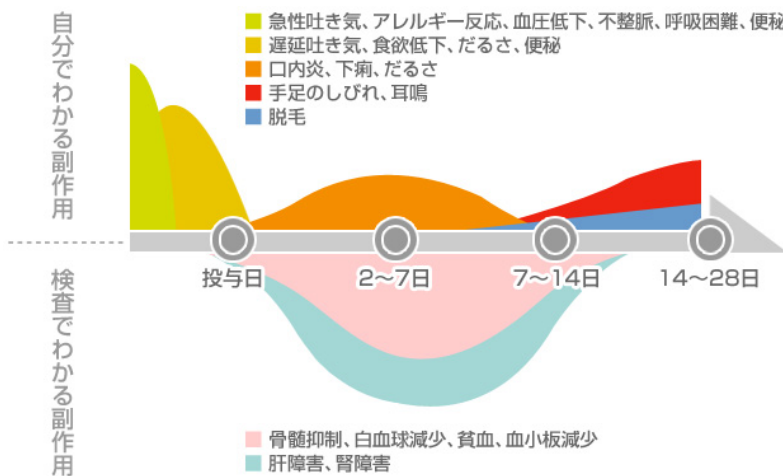
小山記念病院 化学療法委員会

## ◆◆ 発熱性好中球減少症とは？ ◆◆

発熱性好中球減少症とは、抗がん剤治療により免疫力が低下した状態（白血球数 もしくは 好中球数が減少した状態）で、発熱を起こしてしまった状況のことを指します。

日本のガイドラインでは「①体温が 37.5℃以上 ②好中球数が 500/ $\mu$ L 未満であること または 1000/ $\mu$ L 未満で近日中に 500/ $\mu$ L 未満に減少する可能性があること」と定義されています。

## ◆◆ 発熱性好中球減少症を起こしやすい時期は？ ◆◆



左図のピンク色の部分が、最も免疫力が低下している時期です。

点滴治療後、7日後から10日後程度が該当期間となります。

## ◆◆ 発熱性好中球減少症の予防法 ◆◆

一般的な風邪予防を励行してください。外から帰ったら 手洗いとうがい を必ずおこないましょう。市販のうがい薬 もしくは 医師から処方されたうがい薬を使用して、うがいをおこなうのも効果的です。また、人ごみに出掛ける際には、可能な限りマスクを着用しましょう。



## ◆◆ 熱が出てしまったら?? ◆◆

体温が 37.5℃以上の際には、適切な対応が必要となります。医師から事前に抗生剤の内服薬（クラビット® /レボフロキサシン もしくは シプロキサシ®）を処方されている場合には、速やかに服用を開始してください。服用後に熱が下がった場合でも、手持ちの抗生剤は最後まで飲み切ってください。また、手持ちの抗生剤がない場合 もしくは 抗生剤の服用開始後も熱が下がらない場合、発熱以外の症状がひどい場合には、すぐに病院にご連絡ください。



医療法人社団善仁会小山記念病院  
Tel 0299(85)1111 (代表)